

資料1

部活動の地域連携・地域移行について

令和5年(2023年)11月29日

総合教育会議

学校教育部

生涯学習スポーツ部

1 趣旨

本市の市立中学校の部活動について、現在の状況、これまでの取組、国の動向、現在の検討状況を報告するとともに、令和6年度(2024年度)からの地域と連携した部活動の望ましい在り方を協議する。

2 市立学校における部活動の状況(概要)

(1) 学校単位での部活動『令和4年度(2022年度)部活動状況調査』より

○市立中学校に484部活 (運動系320部、文化系164部)

○全生徒約13,000人のうち約11,000人が参加 (加入率83.7%)

○顧問 842人 (うち専門的指導が出来る者は501人、59.5%)

○部活動指導員 12人 (会計年度任用職員、引率など教員と同等の役割)

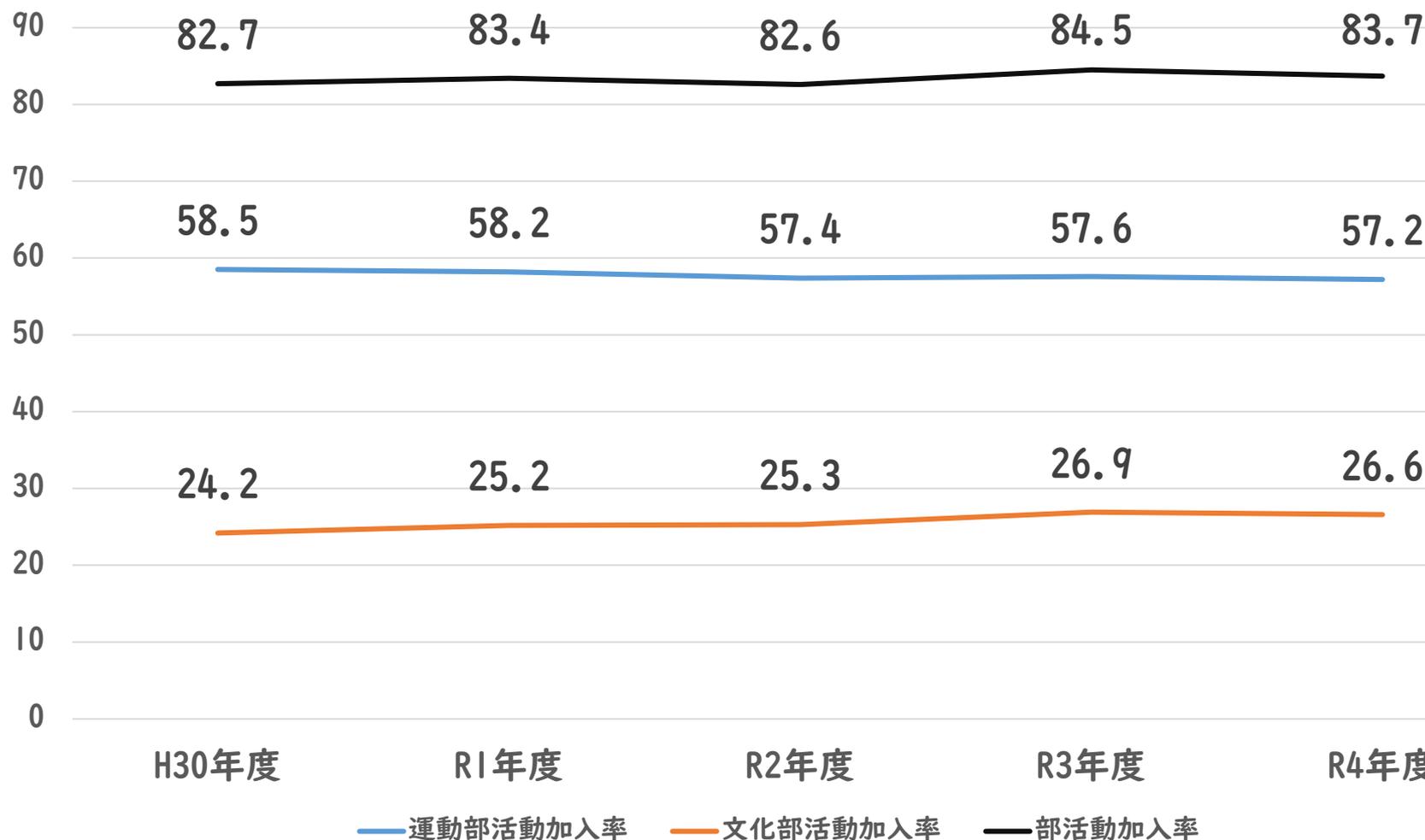
○部活動指導補助員(コーチ) 182人

(有償・無償ボランティア、うち有償は165人、90.7%)

2 市立学校における部活動の状況(概要)

(2)部活動の加入率

単位:%



3 これまでの取組

地域連携部活動を他自治体に先駆けて実施

(1) 広域部活動の実施

平成13年度(2001年度)より試行開始、平成15年度(2003年度)の本実施から現在に至る。

- ・「拠点校方式」…他校の参加希望生徒を受け入れる方式
令和4年度(2022年度)は12校・7競技で実施
- ・「合同方式」…隣接する学校同士で部活動を行う方式
令和4年度(2022年度)は15校・3競技で実施

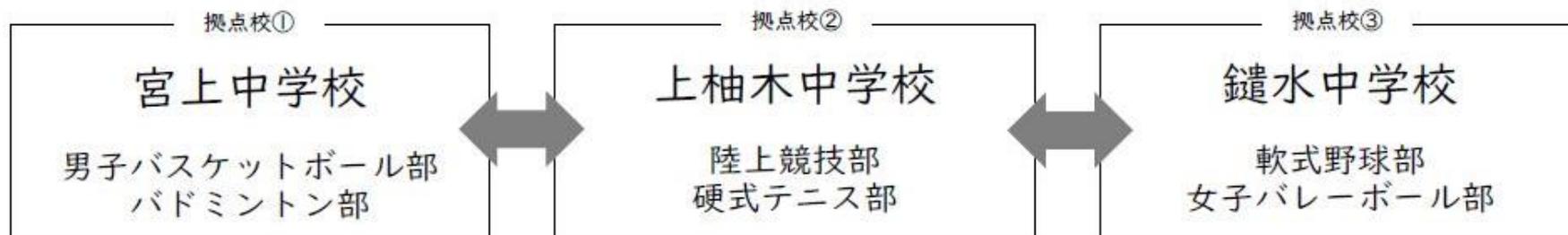
(2) 地域人材の部活動指導への参画

- ・「部活動指導員」…会計年度任用職員(アシスタント職)による外部顧問。
引率など教員と同等の役割を有する。
平成30年度(2018年度)から実施し、令和4年度(2022年度)は12名が従事。
- ・「部活動指導補助員」…有償・無償ボランティアによる外部コーチ。
令和4年度(2022年度)は182名が従事

3 これまでの取組

(3) 令和5年度(2023年度)9月より、モデル校における地域連携部活動の効果検証事業を実施

「休日の拠点校方式部活動」と「部活動指導員の配置」を組み合わせ、生徒の活動機会の確保と充実、教員の働き方改革における効果を検証



※枠内の部活動は、休日は部活動指導員が拠点校にて広域部活動として指導することが原則となる。その他の部活動については通常通り実施する。

(4) 上記のほか、地域の多様な主体と連携した部活動を展開

- ・八王子市レクリエーション協会との連携によるレクリエーション部
- ・コニカミノルタとの連携によるパソコン部指導
- ・セガサミー及びスリーボンドによる野球教室
- ・八王子市陸上競技協会との連携による小学生の中学校陸上競技部体験

4 国が提唱するガイドライン ～部活動の「地域連携」と「地域移行」～

	学校部活動		学校部活動の地域連携		地域クラブ活動
			地域人材との連携	広域部活動による連携	
位置づけ	学校教育の一環(教育課程外)				学校と連携して行う地域活動
指導者	当該校の教師		部活動指導員 部活動指導補助員	部活動指導員等や 関係校の教師	地域の指導者(教師の兼業も可)
参加者	当該校の生徒			関係校の生徒	地域の生徒(多世代交流も可)
場 所	当該校の施設			関係校の施設	多様な場所が想定される (学校・社会教育・コミュニティ施設)
費 用	用具、交通費等の実費				会費、用具、交通費等の実費
管理責任	学校・学校設置者				地域クラブの運営団体
補 償	災害共済給付				スポーツ安全保険など

※スポーツ庁・文化庁『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』の内容を整理

5 現状と課題

(1) 検討体制

令和5年度より「八王子市立中学校部活動検討会議」を設置。5月16日に第1回、8月25日に第2回の会議を開催し、会議関係者との課題整理と意見交換を実施。

【会議の参加者】

- 地域活動関係者 八王子市スポーツ協会会長
八王子市スポーツ推進委員協議会会長
八王子文化連盟理事長
八王子市レクリエーション協会会長
- 保護者の代表 八王子市立中学校PTA連合会会長
- 大学関係者 大学コンソーシアム八王子主査
- 小中学校関係者 八王子市立中学校長会・運動部活動を代表する校長(中体連会長)
八王子市立中学校長会・文化部活動を代表する校長(中学校芸能祭委員長)
八王子市立小学校長会校長
- 教育委員会 学校教育部及び生涯学習スポーツ部の関係部課長

5 現状と課題

(2) 検討会議における地域・保護者・学校からの意見

- 学校と部活、塾で忙しい子が多く、地域活動で「習う」ことが難しくなっている。
- 子どもを対象とした地域活動もあるが、学校部活動との連携はほとんどない。
- 「中学校といえば部活動」という認識を変えていかなければいけない。
- 部活動がなくなる訳ではないと分かった。「地域移行」という言葉だけが先行しない丁寧な説明をすれば保護者の理解は進む。
- 部活動指導員・補助員の増員には予算的な限界がある。また、学校間が離れている地域では広域部活動は難しい。
- 部活動が行き詰ってからは間に合わない。将来を見据え、今から進める事が大切。
- 部活動改革は一度に決められる話ではない。地域活動を全体的に底上げするための準備である。

➡「持続可能な部活動」と「地域活動に参加しやすい環境づくり」
の両輪による子どもの体験機会の拡大を検討

5 現状と課題

(3) 学校部活動と地域活動の現状と問題点

学校部活動と地域活動は別のものとして認識されている。両者の連携は十分ではない。

学校教育

学校ごとの部活動

- 教員が顧問となり、指導している
- 約4割の教員は専門的な指導が難しい
- 少子化により部員が揃わない場合もある
- 「平日4日・休日1日」のガイドラインを超えて活動しているケースもある
- 教員の長時間労働・働き方改革
- 活動時間の長さから、子どもたちが地域活動や地域行事へ参加しづらいこともある

部活動指導補助員による地域連携

広域部活動

「合同部活動」
「拠点校方式部活動」

部活動指導員による地域連携

地域活動

地域団体の多様な活動

- 部活動の種目以上に多様な活動がある。
- 子ども・保護者・学校は、地域活動の情報を十分に知らない。
- 中学校入学を機に、子どもが地域の活動から離れてしまうことがある。

6 めざす方向性

(1)部活動と地域活動が連携し、子どもの体験活動を支える将来像
キーワード:「子どもの選択肢の拡大」「生涯学習・生涯スポーツの活性化」

学校と地域活動全体で子どもに多様な選択肢を提示

学校部活動

全校に
設置する
部活動

運動系ゆるやかに親しむ部〔スポーツ部など〕

運動系本格トレーニング部〔トレーニング部など〕

文化系趣味的教養部 〔文化教養部など〕

文化系技を極める部 〔匠たくみ部など〕

学校ごとに
特色のある
部活動

○○部(例:野球部〔校庭〕)

●●部(例:演劇部〔音楽室〕)

※「この学校といえばこの部活」と言えるような部活動

広域部活動
(拠点校方式)

△△部(例:バスケットボール部〔体育館〕)

▲▲部(例:硬式テニス部〔テニスコート〕)

※一定の広域性をもつ部活動

地域活動

学校と地域団体が
連携し実施する教室
・イベント

(シーズン制の活動や
イベント等)

□□教室

■ ■ 塾

地域団体の多様な活動

(継続的な活動)

スポーツ

文化芸術

レクリエーション

科学技術

自然体験

ボランティア

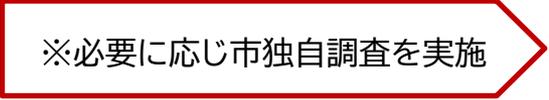
など

教育委員会は活動内容、活動場所、スケジュール、参加費などの情報を収集し、生徒・保護者に提供

6 めざす方向性

(2) 今後の取組

学校部活動の地域連携の拡充と、生徒が地域活動に参加しやすい環境実現のための地域活動団体の「見える化」の取組を推進する。

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
(1) 広域部活動と地域人材の参画の拡大			
(2) 地域団体情報の収集と発信			
(3) 生徒・保護者・教員のニーズ把握			
(4) 部活動検討会議の継続開催			